

流星電波観測 (HRO)

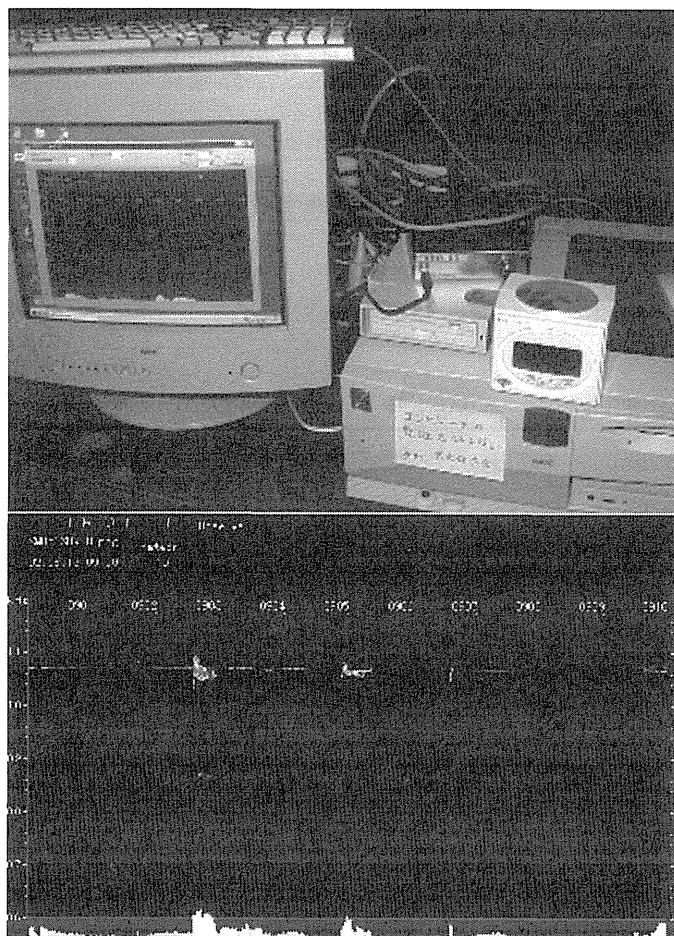
今村守孝*

1. はじめに

流星の電波観測が最も有効なのは、流星群の活動が昼間や悪天候のため眼視観測できないとき、この観測法を使って流星群の活動を確かめることである。

私自身、愛知県立小坂井高校の鈴木和博先生にこの観測法を教えていただき、昨年からはじめた初心者である。

2. 観測法



HROの受信機はアイテック電子研究所 (TEL 0287-62-0939) から約1万円で購入したRX1aを用いている。アンテナは50MHz用2素子八木アンテナ、コメット社の約7000円で購入した物を用いている。記録用コンピュータは中古で約1万円で購入したNECのCPUがMMX 166MHzを用い、流星観測ソフトは埼玉県立春日部工業高校の大川先生作のHROFFTを用いている。観測装置および、観測記録は左の図のとおりである。下図の記録は今年(2002年)8月13日9時のペルセウス座流星群の時のものである。なお、流星観測用の電波は国立福井工業高等専門学校の前川助教授が鯖江市から発射してくれているものを利用している。

観測を始めた当初は私の自宅で行っていたが、今現在は、理科実験室のある校舎の屋上にアンテナをたて、受信機およびコンピュータを理科実験室に置き、連続した記録を取っている。CQ出版社より流星電波観測ガイドブックが

2002年10月1日に2200円で出版され、この観測法に必要な各種ソフトもこの本にCD-ROMとしてついているので、だれでも、簡単に流星電波観測が行えるようになった。

* 静岡県西遠女子学園